



WVL

**Presented by
FAKESTAR**

for adult only



外出中はマスクをつけるんだから、
髭を剃るのは見える部分だけでいいんじゃない？
と、思い、鼻の下、顎上を少し伸ばしてみたんですが、
その状態でマスクつけて外出したとき

なんかアソコがポーポーな人の気分ってこんなのかな？

とわけのわからない感情を抱いてしまいました。
そんな個人サークルFAKESTAR代表、美春です。こんにちわ。

今回はロードスはロードスでも、
DLソフトを扱っている「Steam」で販売していた
「ディードリッド・イン・ワンダーラビリンス」というゲームをプレイしての同人誌となります。

このゲーム、原作者の水野良氏が監修として携わっているだけあり、
「ロードス島戦記」としての雰囲気非常に大切にされているように感じました。

メトロイドヴァニア系のアクションゲームですが、ゲームバランスや操作感も上々でした。
難易度は少し甘いくらいでしょうか。
テクニックがどうしても追いつかないプレイヤーは
ゴールドを稼いで回復薬がぶ飲みで何とかできるため、
攻略の選択肢も広く非常にプレイしやすかったです。

シナリオはネタばれになるので詳しくは言えませんが、
「バーンが逝ってしまった後のストーリー」になります。
私達ロードスファンが必ず来るとわかっている目をつぶっていた事に、
原作者自らが一つの結論を出してくれたことは、私は素晴らしいことだと思います。

もし、このシナリオが当時のロードス完結2、3年辺りで発表されたなら
納得できるものではなかったのかもしれない。

しかし、ロードス完結から時間がたち、私達も
「もう、彼らは休んでもいいのではないか」
と思えるようになった今だからこそ、このゲームのシナリオ、結末は納得のいくものとなっています。

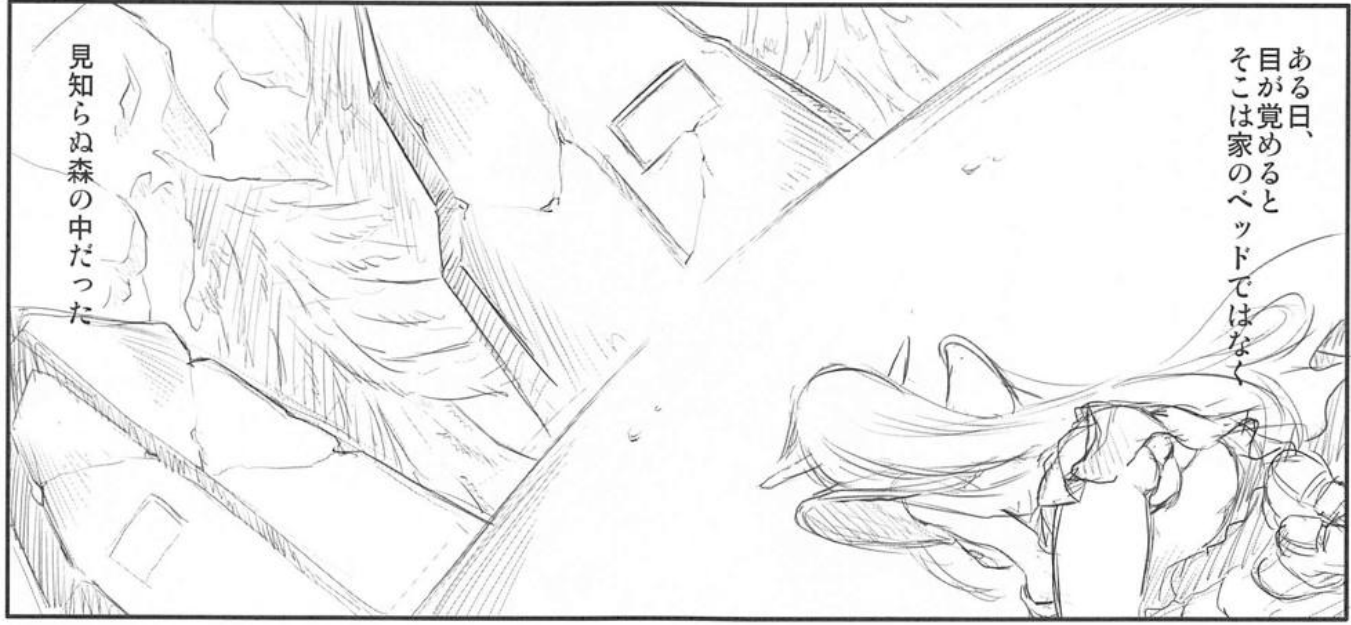
当時、小説やOVAで胸を熱くした今はもういい年になったおっさん達にこそ、
このゲームをオススメします。

それはそれとして

やっぱりディードリッドはエロく、
ゲームに出てくるモンスターによって…と妄想してしまいます。

おっさんになってもエロスが滾ってるんだよ！！
と、いい話になりかけても結局はエロい妄想がはかどってしまった私は
思わずペンを握ったのでした。

ある日、
目が覚めると
そこは家のベッドではなく



見知らぬ森の中だった

パーンがこの世から去り、
生きる意味を見失いかけていた私は
特に生に執着する気も起きなかつたが
ひとまずはこの森を探索することにした



不用意な探索を続ける私は
何度かモンスター達に襲われ、犯され、
命の危機に晒されたが、
意識を失うたびに、
傷や装備の破損が修復され
森の中に点在する
女神像の前で目を覚ますのだった

段々と
現実と夢の区別がつかなくなり、
敵の存在に恐怖を感じなくなる

この森に来てから
どのくらい立ったのだろう
この森で犯され、殺される
そのみが今、私に
「生」を感じさせていた…

なぜかこの森のモンスター達は
私を犯すことに
強く執着している

ひ…ああ…

ん…うんっ

特にゴブリン達の性欲は強い
仲間が殺されようと、
自身が怪我を負おうと、
私を犯そうと手を伸ばす
初めの方は本気で抵抗していたが
最近では抵抗も形だけだ

この森での出来事は
全て「夢」と割り切つてからは
あれほど憎んでいたゴブリンの愛撫すら
快楽に置き換えることができた



ゴプリン達に荒々しく
身体をまさぐられる

この森のゴプリンは
私を犯す前に
毎回私の身体中を舐めまわし、
「アレ」を啜えさせる

ゴブリンに弄ばれることを
受け入れ始めてからは
その背徳感も加わり
心まで犯されているようだった

いよいよ本番となると
私の前後の穴に激しく突き刺す
身体のわりに長く、大きい「アレ」に
奥まで交互に突かれるうちに
身体の奥が熱くなってくる…

ひっ…いい
嫌あつ…

嫌アアアあッ

アッアッアッ
アッアッアッ
アッアッアッ

ッ

熱う…ひい

イグッ

いつちやうう!!

ゴブリ…ン…
ち〇ほお…でえ…

いつちやうう!!

何度目かもうわからないほど
ゴブリンの精を腹の奥に放たれ
ようやく意識を手放す

驚くほど薄くなった嫌悪感
それどころか
犯されたことよっての快楽と
中にだされた満足感が
まどろみのなかで私を満たした

甘い香りに誘われ
気が付いた時にはすでに
身体をツタ触手に束縛されていた

命の危機より、
未知の触手に犯される興奮のほうが
今のわたしには勝っていた



宙吊りにされ
何度も犯され絶頂させられる…
エスノアは私がまき散らす
汗、愛液、尿を美味しそうにする

エスノアが満足するより先に
私の意識が途切れた…

いいよおっ

イグうっ

あひっ

おほああ
あっ

森の深奥には遺跡があり、
宝箱がいくつもあつた
が、そのほぼ全てが
チエストイミターだった

宝箱を開けるたびに
何度も引きずり込まれ
何度も犯された

どれだけがいても
そのスライムのような身体に
捕らわれた後は
逃れることは出来ない

やめっ……
とかさないでえ……っ!!

粘液は衣服を溶かし
むき出しになった私の肌に
ゼリー状の触手が這い回り
性感帯を刺激する



あひ
いいんっ

ぐわっぐわっ

ふあっ

ぐわっぐわっ
ぐわっぐわっ

ぐわっぐわっ
ぐわっぐわっ

ぐわっぐわっ
ぐわっぐわっ

幾度となく気をやり
失禁、潮吹きを重ねて
ようやく解放されるのだが、
その近くにはまた
「宝箱」があるのだ…

あまりの快楽に恐怖し
逃げようとしても
触手によって何度も捕まる
触手に満たされた宝箱に
腰を落とすたびに
快楽が頭の先まで突き抜ける

発行 FAKESTAR
代表 美春
2021 0731 初版
印刷 ヨクスル 様

web 眼鏡と銃と黒
[http://www.113.sakura.ne.jp/~fake/
fakestar@proof.ocn.ne.jp](http://www.113.sakura.ne.jp/~fake/fakestar@proof.ocn.ne.jp)

WL 成人向 **for Adult Only**